

笑う門には福来たる



(株)日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911

明朗・愛和・喜劇

天を仰いで
心が少くうつ時
天を仰いで
息をしようと
大宇宙の無限へ力
吸飲取しよ!

普段、当たり前のように話している日本語ですが、本来の意味や言い方を誤って使用している場合があります。たとえば、「眠りから覚めた時の気分が悪いこと」を「寝覚めが悪い」と言います。が、文化庁の国語に関する世論調査では、約六割の人が「目覚めが悪い」という言い方をしているそうです。

特に十代、二十代においては、「目覚めが悪い」という言い方をする人がおよそ八割にのぼります。

その他にも、一時しのぎを意味する「姑息」も、「卑怯」や「ケチ」など、誤った意味で使われることが多いようです。

言葉に限らず、日頃の業務においても、今の当たり前を疑うことで、新たな発見や、業務改善の鍵が見つかるかもしれません。常に職場をより良くする意識を持つて、自分の仕事を見つめ、改善・改良を積み重ねるところに、職場人としての成長があるのであります。

◆ 当たり前を疑つてみましよう

「職場の教養」より

若き日に人恋そめし思い出の文もあらんか黄ばみし手紙

お月見を二人でせんと生菓子を妻は買いきしかの十三夜

保親さんの人生万感

渋沢栄一の生家 (埼玉県深谷市)

渋沢家の長男として誕生してから23歳までを過ごした生家。通称、中の家(なかんち)と呼ばれています。主屋は火災で焼失したため、現存する建物は栄一の妹夫婦が再建したもの。渋沢家は代々農業を営み、栄一の父の代には養蚕や藍玉づくりなどを手掛けるようになりました。財を成した。生家は1985(昭和60)年から「青淵塾 渋沢国際学園」の施設としても使用され、多くの留学生を迎えていました。主屋では80歳の栄一をイメージしたアンドロイドがお出迎えしてくれます。



日本再発見! — 建物 —

朝の過ごしが一日を決める

目が覚めたらサッと起きる。立ち上がりが上手いくと要所要所に気づくようになり物事もスムーズに運ぶ。

